

## 筑波大生のアイデンティティ形成における都市伝説の役割

武田 唯希

「都市伝説」とは、口承や書承によって主に流布されるものであり、特に現代発祥のもので、根拠が曖昧・不明であるものとされている。かつては主に口承によって語り継がれていた都市伝説は、時代を経てインターネット社会となり、徐々にインターネット上で広く楽しまれるようになった。これまでの都市伝説研究は、大きく分けて理論研究と具体的な事例を対象とした分析に二分されてきた。先行研究から、都市伝説を共有することは民衆の娯楽を構成していること、特徴的な言語使用がアイデンティティ構成に影響を及ぼしうることが分かった。しかし、都市伝説が大学生のアイデンティティに与える影響については明らかになっていない。そのため、本研究では筑波大学生活において都市伝説を日常で共有することは筑波大生としてのアイデンティティ形成に影響を与える可能性があると考え、筑波大生にとって筑波大学の都市伝説はアイデンティティの一部になりうるのではないかと仮説を立てた。したがって、筑波大学に関するどのような都市伝説があるのかを明らかにすること、筑波大学の都市伝説が筑波大生のアイデンティティ形成にどのような影響を与えているのか明らかにすることを目的とした。筑波大学に関する都市伝説は特にインターネット上で広まり共有されていると考えられる。そのため、筑波大学関係者問わず SNS 利用者を対象に、GoogleForm を用いた質問紙調査を行い、加えて文献調査も行った。質問紙調査では 207 人の有効回答が得られ、筑波大学には数多くの都市伝説が存在しており各都市伝説の知名度に大きな偏りがあることが明らかになった。また、筑波大学の都市伝説は単なる噂話にとどまらず、学生や卒業生のコミュニケーション手段として機能し、大学コミュニティ内外でのつながりを強化する役割を果たしていることが分かった。都市伝説を共有することは、筑波大生のアイデンティティ形成に少なからず影響を与えていることが明らかになった。特定の筑波大学都市伝説を他者と共有することにより「筑波大生らしさ」が生まれ、それが自分が筑波大生であることを意識付けていることから、都市伝説を共有することは個人のアイデンティティ形成に役立っている可能性が示唆された。都市伝説は単なる娯楽話以上の意義を持ち、大学の文化や社会的アイデンティティの一部として捉えるべきであろう。

本研究の目的である大学という社会空間における都市伝説の役割にフォーカスすることで新たな知見を提示するという点は達成されたと考える。今後の大学都市伝説研究において、本研究で分析した筑波大学の都市伝説やさらなる都市伝説とアイデンティティ形成に関する研究のきっかけとなることを期待するとともに、そのためにもさらに分析対象を増やして、より多くの筑波大学都市伝説を発見し、アイデンティティ形成への影響をより深く研究していくことが課題である。

(指導教員 村田 光司)